

藤木賞を受賞して

長崎県立大学 大学院 人間健康科学研究科
栄養科学専攻 細胞生化学
崎元 陽子

初めて参加させていただいた第21回レチノイド研究会において記念すべき第一回目の藤木賞（基礎医学・生物学）を受賞し大変光栄に思っています。私は現在大学院で博士前期課程の1年次を履修しており、卒業研究から実験研究をスタートしたとしてもまだ3年足らずの研究歴しかありません。にもかかわらず、このような栄えある賞をいただくことができ、重い責任を感じると共に今後の研究への大きな励みとなりました。

私たちの研究室ではゲラニルゲラノイン酸（GGA）による肝癌の再発予防の仕組みを解明することを研究テーマのひとつとして、日々研究に取り組んでいます。GGAは、自然界に存在する天然の有機化合物で、肝癌再発の予防薬として現在開発が進められている非環式レチノイドNIK333と類似の化合物です。私たちは、自然界に存在するということからこの化合物を栄養素の1つと考え、栄養学的視点から肝癌細胞の細胞死誘導機構に関する研究を行っています。最近の十数年間は細胞死のメカニズムに関してはアポトーシスの研究が隆盛を極め、現在はほぼ一段落した感がありますが、細胞死については未解明の点が数多く残されています。アポトーシス以外の細胞死のメカニズムについて、ここ数年オートファジーを伴った細胞死に研究者の関心が寄せられています。しかし、オートファジーは細胞が低栄養状態になった時のエネルギー供給法であったり、ウイルスや異物、老廃物の排除法であったりして、元来細胞の生存戦略に利用される生物学的プロセスです。私たちの研究室では、数年前に岡本らによりGGAがオートファジーを伴った細胞死を誘導することを見だし報告しました（2007年・癌学会、2008年・生化学会、ビタミン学会、2009年・分子生物学会、ビタミン学会）。しかし、それがなぜ細胞死に至るのか、未だに明らかになっていません。私は、栄養素であり、おそらく体内代謝産物の1つと考えられるGGAが癌細胞の生存戦略にどのような介入をして細胞死を誘導するのか、その詳細を解明したいと強く考えています。

私は研究者としてはまだまだ未熟ですが、この賞を励みに、今後も研究に全力を尽くしていく所存です。最後に、この研究に関わってくださった皆様、発表を聞いてくださった皆様、本当にありがとうございました。



“藤木賞”を受賞した長崎県立大学大学院の崎元陽子さん（研究室にて）